

令和2年度 第1回

境港市子ども・子育て会議

会議録

日時 ◇ 令和2年8月31日（月） 19:30 ～

場所 ◇ 境港市保健相談センター講堂

出席委員 ◇ 委員13名（別添）

傍聴者 ◇ なし

会議書記 ◇ 子育て支援課児童係長 川田順子

(事務局)

こんばんは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

これより令和 2 年度第 1 回子ども・子育て会議をはじめます。

初めに、福祉保健部長の阿部がご挨拶申し上げます。

(部長)

*部長あいさつ

(事務局)

続きまして、今年度の事務局よりご挨拶させていただきます。

*事務局あいさつ

(事務局)

それでは次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

次第の 2 番境港市子ども・子育て会議委員の紹介でございます。

今年度初めての会議でありますので、委嘱状につきましては、本来お 1 人ずつに手

渡しするべきではありますが、新型コロナウイルス感染症を防止する観点から、事前

に席に配布させていただいております。順番にお名前を読み上げますので、その場で

一言ご挨拶をお願いいたします。

*委員あいさつ

(事務局)

次に、皆様にお配りしてあります本日の資料を確認させていただきます。*資料確認

今年度、境港市子ども・子育て会議設置要綱の一部改正をしております。

変更点といたしまして、当初、行政機関の職員も委員として参加しておりましたが、立場上、その後委員を外れており、その現状に合わせ、委員の定数を15人から13人に変更いたしました。また、計画の進捗状況を継続的に評価していただくため、任期を1年から2年に改正しております。

設置要綱第6条会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができません。本日、現時点で半数以上の方にご出席をいただいております。(全員出席)

ここに会議が成立することをご報告させていただきます。

次第の3番、正副会長選出です。

*正副会長選出

(事務局)

それではここからの議事の進行を会長の坪栄委員にお願いしたいと思います。

(会長)

それでは次第に沿って進めていきたいと思っております。まず第二期計画について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

*概要の説明

これから委員の皆様はこの第二期計画の進捗状況と全体の成果の両面から毎年点

検・評価を行っていただくこととしております。計画の見直しや推進していくにあたり、委員の皆様にも都度ご意見を頂戴し、本計画をより実態に沿った、精度の高いものにしていきたいと考えております。

(事務局)

計画の第二章で、具体的な数字、前年の実績など、今後10月を目処にまとめまして第二回の会議のときに実績の数字を具体的に示しながらその際に評価をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(会長) はい、ありがとうございます。

ご質問がありますか？

(委員)

資料の第二章の計画の背景のところですが、男性の育児時間と、それから給与労働時間のデータがもしあれば、載せておくべきものなのかなと考えます。

男性の育児時間と給与労働時間のデータをもしお持ちであれば、そういったものを載せておいた方がいいのかなというふうに個人的には思いました。日本人男性の労働時間が、極端に長くて、育児参加の妨げになっているということが、そこからはっきりと出てくるかと思っておりますので、そういったものも検証して、市としても何かできることがないのかなといったようなこともしっかり考えることが必要かなというふうに思います。

(会長)

その辺の統計というのは取っておられますか。

(事務局)

今この場には数値を持っておりませんので、次回の 10 月の会議の際、何か提供できるデータがあれば併せて報告させていただければと思います。

(会長)

よろしいですか。はい。よろしく申し上げます。他にございますか。

今日はですね、1 回目の会でありますので、素朴な疑問でもありましたら

いただければと思いますけど。

(委員)

計画のP34 保育士の、資質の向上ということで、研修等ということが記載されており、それも必要なことだと思うのですが、一方で、保育を支えてくださっている保育士の待遇改善であるとか、今特に新型コロナウイルス感染症防止に取り組みながらの大変な環境において、日々、保育従事してくださっているというようなこともあり、そういった意味でのサポートとか、そういった視点でも何かもあってもいいのかなということも思いました。

(会長)

わかりました。そのあたりは資料としては次回での形になるのでしょうか。

(事務局)

やり方を考えたいと思うのですが、主に計画を 10 月に評価いただく際には、一番重要なのは保育の受け皿をどうやって確保して、それによって待機児童とかが起きてないかというのを、点検いただくのですが、当然、保育の受け皿確保ということには、背

景には、保育士がきちんと確保されているかという点と深い関係がございますので、
そういう受け皿の確保状況の中で、今のようなご質問についても、具体的に考えて参
りたいと思います。

(会長)

よろしく申し上げます。他にございますか。

そうでしたら、次にすすみましょうか。事務局よろしく願いいたします。

(事務局)

続きまして、次第 5 番の境港市における保育のあり方について御説明させていただ
きたいと思います。本日、差し替えました資料の方をご覧いただけますでしょうか。本
年度、こちらの方お諮りする目的としましては、現在、将来の人口推計などいろいろ
と議題にする中で、きちんと保育の受け皿を確保しまして、なおかつ市民のニーズに
きちんと応えていくためにはどういう保育をやっていくかというのを、この場で検討い
ただきたいということでございます。

背景としまして 2 番目の趣旨にありますように、境港市では平成 17 年度に一度、境
港市における幼稚園保育のあり方というものを取りまとめまして、それに基づいて今
まで様々な取り組みをしてまいりました。平成 17 年度のときには、乳幼児の保育サ
ービスというのは、民間で十分サービスが提供できるということで、民間に委ねる方
針。併せてその際に、幼稚園の廃園ですとか、公立保育所の民間移管に取り組んで
きたところでございます。

それについては、順番が飛ぶのですが、6 ページの資料 3 をごらんいただけますでし

ようか。その後に、当時の平成 17 年度のあり方検討の資料もつけているのですが、それを元に幼稚園が、4カ所あったのですけれども、全園廃園という形になりまして、あわせて、公立保育所の方は当時、6園あったものが現在 3 園というふうな形で、いわゆる整理統合の方を積極的にやってきたというところでございます。

合わせて、3 歳未満児の保育を開始、当時の公立保育所は 3、4、5 歳のいわゆる3 歳以上児の保育をしていたのですが、3歳未満児まで広く拡大するというようなことの取り組みをしまりました。

その他、待機児童の対策に対応するために、私立園様も含めて、色々な受け皿の確保というのを取り組んできたところでございます。それによりまして、平成 17 年度は、いわゆる 3 歳未満児が当時 264 人という受け入れ人数だったのですが、令和 2 年度には 413 人ということで、大幅に増えている中で、待機児童は 4 月時点ではまだ 0人というのを維持しながら保育をしまりました。

資料の表紙の方に戻っていただけますでしょうか。

ただ、ご承知のように、平成 17 年度当時と比べまして、現在非常に市内の状況が変わってきております。ご承知の方も多いと思いますが、市内の誠道小学校が、小学校の子どもさんが減るという中で、今年度 4 月から余子小学校へ統合という形となり、市内の小学校なども大きく変わってきております。

当然そうなってくると保育園の方が今までどおりで進んで良いのかということ、やはり点検する時期に来ているのではないかということで今回お諮りしていくということでございます。

資料を順番に説明させていただきます。資料 2 ページ、「資料 1」となっておりますが、幼児教育保育施設の利用状況についてです。

その一番上にあります、2000 年（平成 12 年）当時、人口としましては、0 歳から 5 歳まで合わせて 2103 人という人数に対して一番右側、幼稚園や保育園に合わせた利用人数が 1127 人というふうに、当時はざっくり言いますと半分ぐらいの方が教育・保育施設利用していたという状況でございました。これがその上の表の一番下、2020 年（令和 2 年）の数字で言いますと、人口は約 1500 人、1499 人という状況であります。利用人数は 1207 人ということで、平成 12 年よりも増加という形になっております。特にその中で目立つのが、未満児いわゆる 0、1、2 歳の人数、平成 12 年 184 人だったものが、413 人ということで、この 0、1、2 歳の利用人数というのが非常に大きく、伸びてきていると。一方で、幼稚園の人数は、減ってきているというのがこの表で見ただけであれば分かると思います。

さらに、今回の第二期計画で、令和 6 年度までの見込みを作っているのですが、今後も人口はじりじり減り、6 年には 1305 人というふうに減ってきて、それに合わせて利用人数の方も少しずつ減るというような見通しを立てているところでございます。

下の方にグラフでその推移というのを図示しております、見込みではありますが、概ねこういうふうな経過になる可能性が高いかなというふうに見込んでいるところでございます。

合わせてですね、右側 3 ページの方にありますが待機児童の方は、4 月時点では先ほど言ったように 0 人というふうに言っているのですが、やはり 0 歳を中心に年度の途

中で待機というのが残念ながら発生しております。

0歳の待機が発生する事は、毎月毎月赤ちゃんが4月、5月と産まれてまいりますと、やはり最近の社会情勢から、母親も何ヶ月かは家でみても、年度の途中からでも園に預けて仕事に復帰したいというように、年度中途であっても、随時利用の申し込みというのが出てきます。どうしても先ほど委員からもご意見があったように保育士の確保の問題など、色々な問題がございまして、年度中途いつでも自由に入れるという状況になっておりません。

毎年10月の数字を挙げておりますけれども、年によりますが多い年で37人という、2016年の数字がありましたけれども、他の年も特に0歳さん中心に何人か待機が出ているという状態がございます。

先ほど、誠道小学校が統合になったこともお示しましたが、4番に小学校の全体の数字を挙げております。一番右側の小学校の児童の合計数は、2011年の2890人が、2020年には1675人ということで、全体はやはり減ってきているところでございます。ただ、小学校の校区ごとに数字についてはバラつきがありまして、上道小学校ですとか、渡小学校区については、ほぼ2011と2020年に比べても横ばい、若干増いともある一方で、境とか余子のように大幅に落ち込んできているというところもありまして、やはり地区によってバラつきがあるかと。この辺も今後ですね、意見を交わす中で、園の配置なども含めて、どういうふうにしていくかという事を、こういった数字を基に皆様とご意見を交わしていけたらというところでございます。

市内の施設がどのようになっているかを資料4ページ、5ページに載せております。

まず、4 ページに市内の地図と、境港市内にあります小学校ですとか、保育園、幼稚園、そういった施設を地図上に示してございます。

点線で区分してありますのは小学校の校区を図示しておりまして、おおむね小学校区にまんべんなく保育施設が分散しているところでございます。

それを、5 ページの方に、もうちょっと詳しく、認可定員ですとか、園児数で見えてきますと、率にはばらつきがあることにお気づきいただけるかと思います。概ね平均が 90% ということで、定員よりも園児数に若干の余裕があるという状態でございます。

ただ場所によっては、例えば、みなと保育園のように 62% というふうに少し低いところがあります。こちらについて分析すると、最近では、やはり小学校に上がるまで、0 歳で預けてからずっと同じ幼稚園・保育園を利用していきたいというニーズが高まっている結果であり、0、1、2 歳の専門施設は、3 歳になると転園をしないといけない、そうすると子どもさんの環境が変わってくる。このような理由でどうしても利用の申し込みとしては第一希望ではなくて、第二、第三希望になってくるため、このような結果になっているのではないかと予想しているところでございます。

そのあたりの分析も、今後詳しいものをお示し、今後のあり方に反映させていただければと思っております。

もう 1 回 6 ページ目に戻っていただいて、資料の第3になります。平成 17 年に示したものの、当時の定めた方針というのを、上に三つほどございます。乳幼児の保育サービスについては、民間に十分サービス提供ができるということで民間に委ねていくという方向を当時立てました。一方、その中で障害児保育ですとか、病状・病児保育と

いった行政が関わるべき部分についてはしっかり行政が関わりながら、民間ともに解決を図っていくことが当時の方向でございます。

当時は公立幼稚園については、廃園すべきという方針の結論を出しました。

保育所については、当時は民間が3歳未満児専門で公立では3歳以上児というふうに役割がわかれておりましたが、このときの議論を踏まえ、何園かの廃園にあわせ、今では先ほどのみなど保育園を除きますと、公立保育園で1歳から小学校入学まで、私立保育園は0歳から小学校入学までとすべての園が一貫保育に進んでいる状況であります。また一部、公立保育園では0歳は受け入れていないなど、まだ道半ばという状態になっているところでございます。

全体を通しまして、現状を今回はご紹介したところですけれども、これを踏まえて今後どういうふうに進めていくかというのを、こちらの案と皆様のご意見、それ以外に市民のニーズですとか実際に事業をしている方の声、そういったものも、踏まえながら検討したいと考えているところでございます。最後に1ページ目に戻っていただきまして、今後のスケジュールについて挙げております。

今回、こういった全体の数字、現状報告をしたのがこの8月の第1回の会議という形になってくるわけですが、今後、もう明日から9月ですが、先ほども言いましたが、やはり保護者とか事業者の実際の声というのは全くなしで、こういった計画は作れないと思いますので、そういったものをこちらの事務局の方で聞いていくようなことを考えております。

そして10月に予定しております第二回の会議では、先ほどご紹介した平成17年の

あり方についての検討からの積み上げと、今回の声を踏まえまして、素案を作成し、その素案を提示した上で皆様の方から意見をいただいくということを10月に予定しております。

また、そこでいただいた意見、その場でまたすぐご回答できない部分もあると思いますので、宿題なども踏まえましてさらに翌月11月にその意見をいただいたところに修正をかけていってより良い案にブラッシュアップしていく、そこで順調に確認できれば、その後いわゆるパブリックコメントという形で案を広く提示していき最終的なものにしていくと流れです。

若干、スケジュールに追加があるかもしれませんが、概ねこういうようなスケジュールで進めさせていただきたいと考えているところでございます。事務局からは以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。資料を見ますと、びっくりなんですけれども、子どもの数が減った割には、幼稚園・保育園を利用している子どもの率は上がっております。行く先々は、人口の推移を見ますと子どもの数が減ってくるというのはまぎれもない、予測といいますか事実ですけれども、これについて皆様のご意見をちょっと伺ってみたいと思います。長年の経験をもとにご意見をいただけますか？

(委員)

失礼します。こうして見ますと平成12年、17年というところの幼稚園の廃園とか、それから公立保育園の数が減ったという現場に立ち会ってきました。子どもが減少しているといっても、やはり、いつの時代も子どもや、親御さんの必要としていることはどこ

なのかなという視点で、例えば今でしたらコロナ禍で行事をどうしていくかとか色々な問題は、変わらず出てくると思います。私も昨年 1 年間はほぼそういう現状から離れておりますので、今の資料を見ながら、現状を実感しているところでした。今年はその目で見えりながら、世間を見ながら意見を言えるようになりたいと思っております。やっぱり子どもの数っていうのと、親がどこを必要としているかっていうことを、この会議においては大事なポイントになるのではないかと思います。

(会長)

本当に、この変化のタイミングの中でずっと仕事をされたわけですから、一番よくご存知だと思います。他にどなたか意見ございますか。

そもそも皆さん、民間保育園と公立保育園は違うというイメージはございますか？

(委員)

先日、保護者会連合会主催の意見交換会を開催しました。会の事前段階としてアンケートを調査して、それを集計作業していく中で、他の園の保護者さんと情報交換したのですが、そこまで民間と公立の保育園の違いを感じませんでした。違うというイメージは持ってありません。

(会長)

わかりました。かなり昔は公立がいいっていう、公立の方がやっぱり安心みたいな、そういう風潮があったようですが、やっぱりちゃんとした公立の方がいいなとかですね、今はなくなったといえますか、そんな雰囲気はないですね。

境港市は特に、公立と私立が毎月会議を開いて、連携を取り合って情報交換をした

りですね、一緒に勉強会をしたりということで、お互い助け合ってやっております。私たちも今はそういう壁はないと思っております。

(会長)

先ほどの事務局の説明で御意見ございますか。

(委員)

すいません。こういう資料っていうのは、なんとなく色々見せてはいただいている、二、三日前にいただいたものですからざっとしか見ていないのですが、この頃、言われている子どもの数が減って行って、学校の動向であるとか、保育園の数とか、いろいろ考えていかなきゃいけない時期だということはわかるのですが、具体的に、本当に保育園の方たちが考えておられることとか、そういう直面している問題っていうのが、わかりにくいところがあるので、また勉強させてもらってから、質問させていただきたいと思います。

(会長)

他に何かございますか？

(委員)

資料2ページのところで今後5年間、人口推移が載っているかと思いますが、今回、第二期計画は5ヶ年計画ということで令和6年までの5年分のデータが示されているところですが、今回、先ほどご説明にもあったように、平成17年のあり方策定から15年程経っていると思うのですが、ここは5年長く、例えば10年以降についても見込むなど、長い目で見た方が良くはないかなというような印象を持

ちました。

実際、今後子どもの数がどんどん減っていくということは避けられないので、そういったところで5ヶ年計画、5年間を見ていくということは今回の議題ではあるのですが、けれども、その先を見据えた形で、計画のチェックといいますか策定に取り組んでいきたいなというふうな印象を持ちました。

あと、先ほどの説明にもあった通り、今年度から、誠道小学校が余子小学校と統合になったというところもありますので、各小学校ちょっとばらつきがあるというふうなお話もありましたが、そういったところを地区毎に、校区毎の人口推計の見込みであるとかそういったところも、もし算定できるようであれば、次回教えていただければなというふうに思っております。以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。他に何かご意見ありますか。

(委員)

ありがとうございます。あんまり、自分の中でうまく考えることができるかどうか自信がないのですが、いろんな意見を出すっていうことの一つにしてみれば、先ほど話してくださったように、公立と私立の差があまりなくなってきたりとか、それから計画の中にあつたように、市としていろいろな働きをされて、そこに親御さんの支援と子育て支援の目線とか、それから保護者の方、あるいは園同士の連携とか、ずいぶん整えられてきたと思うのですが、逆に、先ほどのお話してくださった保育士の待遇の問題の部分は、またちょっと領域が違うかもしれないですけど、子どもの数が少なくなったと

いう時点で、この今までの資料ですと、子どもと地域の中にある施設と、それからその充足率が書いてあるのですが、逆に子どものあり方とか育てる場所など、ちょっとソフト面も一緒に入れてもいいのかなと、今後、境港市の子どもとしてどのような子どもを育てていくかということは、人数が少ないだけではなくて、例えば園の中の面積やら、それから支えてくれる先生の数やら、それから保育の休日とか早朝とかあるという問題だけではなくて、その子どもたちを守るソフトについてとかも、子どもの人数が少なくなるからこそ、次に充足していくべき部分に目線が入ってもいいかなとは感じています。

(会長)

ありがとうございました。他にご意見ございますか。

今日は第 1 回目ですので、素朴な質問でも何でも結構ですので、どうですか。

結局、子どもの数が減っていくってことで、小学校は統廃合ということですけども、やっぱり方向性としては、保育園のほうも施設の数減らすとか、あるいは定員をぐっと下げるとかといった方向性っていうのはやはり当然、選択肢の一つとしてはあるわけですね。

(事務局)

もちろんそのあたりは今後の議論の中によりますけれども、一つ単純に言いますと、概ね今、保育園っていうのは 1 園当たりだいたい 100 人、もうちょっと多いと 110 人とかっていう園もありますけどもだいたいそのくらいの園児数というふうに考えますと、先ほど 2 ページ目にお示した人数の推移でいきますと、令和 2 年度と、この先って

いう意味でいくと、100人200人というふうに、これでいきますと再び言うと、1園分、極端にいうと2園分のような形で子どもの数が減ってくる見込みが今ありますと。その場合に先ほどのようにやはりきちんと保育士の処遇を確保して質を高めていこうとすると、やはり特に私立園だと、収入面っていうのもやはり無視できないということになると、単純に子どもの数が減ってきました、その分収入が減りましたということになって、悪い影響になってもいけませんので、そういったことも含めて、きちんとした質を維持しようとする、ある程度、受け皿とかそういった収入面なども意識しないといけなかなという問題意識は持っております。

ただ、そのためにどういうふうにするのかというのは、そういった数字をお示ししながら、この場でもご意見をいただければというところでございます。

(会長)

わかりました。保育士の処遇の件ですね、今、処遇改善手当っていうものが3年前頃から、導入されてきて、アップしてきたという状況はありますけれど、保育士不足っていう状況はやはり変わっておりません。

それは、保育士の仕事は給料が安くて仕事が辛いということで敬遠されているっていう、そういう説が専らなのですけれども、昨今、保育施設が、短期間の間に爆発的に広がっていったということがあって、その広がりによって保育士の絶対数が追いつかなかったという経緯もやはり見逃せないところだと思います。

保育士もそれと比例して増えていくというわけではなくて、やはり需要の方が圧倒的に増えてしまうということで、そこで保育士不足が始まり、不足が起きてから保育士不

足なのは仕事がきついからとか給料が低いだとかの理由付けがなされたように私は
思っておりますけれども。

そうしますと、次第のその他で事務局の方から何かございますか。

(事務局)

今後のスケジュールにつきまして、まず次回、第2回の子ども・子育て会議の日程を、
こちらの案としましては10月27日火曜日で調整したいと考えております。追ってご
案内を差し上げます。事前に資料配布も予定しておりますので、よろしくお願いいた
します。

(会長)

そうしましたら、本日の会議内容について、最後にちょっと違った角度で、お話を伺い
たいと思いますが、お願いできますか。

(委員)

今日のお話、十分に大事なことです。入れ物と、そこで動く人と、実際にそこで効果を
あげる、意味のある保育ができる、ハードとソフトの問題があるよということです。子ど
もが少なくなって、実際そうですけれども、それに伴ってより個別化というか、園児に
対し個別的な目でみていかなくてはならないので、より難しくなるという気がしていま
す。子どもが少なくなるということは当然兄弟も少ないということで、親御さんにとって、
もちろん複数いるから大事じゃないってことではないですけど、大事さがより増してく
る環境になってくるので。

新聞にもありましたけど、災害時の園での対策だとか、医療ケア児の対策もあると思

います。もちろん、新型コロナウイルス感染症を含め、感染症対策なども考えていかなければならず、園の皆さん頭が重たくなってくると思います。

(会長)

はい、どうもありがとうございます。

それでは本日はこれで閉会といたします。今日はお忙しいところどうもありがとうございました。

=====

19:30~20:29(59min)

[事務局]

福祉保健部長

教育総務課長

教育総務課学事係長

子育て支援課長

子育て支援課児童係長

[別添]

境港市子ども・子育て会議 委員名簿

	区 分	氏 名
1	子どもの保護者	浜田 潤
2	子どもの保護者	佐藤 勝之
3	子どもの保護者	松本 昭児
4	子ども・子育て支援に従事する職員	坪栄 周作
5	子ども・子育て支援に従事する職員	松下 裕子
6	子ども・子育て支援に従事する職員	佐々木 真美子
7	学識経験者	細田 淑人
8	学識経験者	岩本 裕美
9	学識経験者	竹内美智子
10	学識経験者	小笠原 友子
11	公募委員	宮本 剛志
12	公募委員	安永 義隆
13	公募委員	都田 詳子

※1 敬称は、略しています。